

注3

大学番号：私270

[平成26年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

中部学院大学 看護リハビリテーション学部 看護学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 岐阜済美学院
平成26年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 キョウムフチョウ 教務部長 タウチ ヒデオミ 田内 英臣

電話番号 0575-24-2211

（夜間） 0575-24-2211

F A X 0575-24-0077

e-mail tauchih@chubu-gu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成26年3月20日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1	調査対象大学等の概要等	1
2	授業科目の概要	5
3	施設・設備の整備状況, 経費	9
4	既設大学等の状況	10
5	教員組織の状況	12
6	留意事項に対する履行状況等	20
7	その他全般的事項	21

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 岐阜済美学院

(2) 大学名

中部学院大学

(3) 大学の位置

〒501-3993

岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カタギリ タケシ) 片桐 武司 (平成4年4月)	—	
学長	(フルタ ヨシノリ) 古田 善伯 (平成25年4月)	—	
学部長	(ミカミ アキチカ) 三上 章允 (平成23年4月)	—	
学科長等	(ヤマダ シズコ) 山田 静子 (平成26年4月)	—	

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成24年度に報告済の内容 → (24)

平成26年度に報告する内容 → (26)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成23年度開設の4年制の学科の場合(平成26年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護リハビリテーション学部 看護学科 学士(看護学)	4年	80人	— 年次人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	() []	80人 () []	— () []	1.13倍								
志願者数	() []	255 () []	— () []									
受験者数	() []	241 () []	— () []									
合格者数	() []	186 () []	— () []									
B 入学者数	() []	91 () []	— () []									
入学定員超過率 B/A									1.13			

- (注) ・ 数字は, 平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[-]	[-]	
2年次	/		[]	[]	[]	[]	[]	[]	
3年次	/		/		[]	[]	[]	[]	
4年次	/		/		/		[]	[]	
計	[]		[]		[]		[-]	91	

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成23年度 入学者	人	0人	平成23年度	人	人		%
			平成24年度	人	人		
			平成25年度	人	人		
			平成26年度	人	人		
平成24年度 入学者	人	0人	平成24年度	人	人		%
			平成25年度	人	人		
			平成26年度	人	人		
平成25年度 入学者	人	0人	平成25年度	人	人		%
			平成26年度	人	人		
平成26年度 入学者	91人	0人	平成26年度	0人	0人		0%
合計	91人	0人					0%

(注)・数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成26年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<看護リハビリテーション学部 看護学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間理解基礎科目	キリスト教概論	1前	2								兼1	
	哲学の基礎	1前	2								兼1	
	宗教と人間	2前	2								兼1	
	文学と人間	4前	2								兼1	
	現代社会と人間	4前	2								兼1	
	現代社会と情報	4前	2								兼1	
	人間と言語発達	4後	2								兼1	
	美濃と飛騨のふくし	4後	2								兼1	
自己実現・自己表現関連科目	ボランティア活動論	2後	2								兼1	
	スポーツ科学論	1後	2								兼1	
	情報活用論Ⅰ	1前	2						1			
	情報活用論Ⅱ	1後	2						1			
	情報活用論Ⅲ	2前	2						1			
	キャリア形成論Ⅰ	1前	2								兼1	
	キャリア形成論Ⅱ	2後	2								兼1	
	身体による表現活動Ⅰ(スポーツ実技)	1前	1								兼1	
	身体による表現活動Ⅱ(レクリエーション実技)	2後	1								兼1	
	言語による表現活動Ⅰ-1(コミュニケーション英語)	1前	1								兼1	
	言語による表現活動Ⅰ-2(コミュニケーション英語)	1後	1								兼1	
	言語による表現活動Ⅰ-3(コミュニケーション英語)	2前	1								兼1	
	言語による表現活動Ⅰ-4(コミュニケーション英語)	2後	1								兼1	
	言語による表現活動Ⅱ-1(コミュニケーション中国語)	4前	1								兼1	
言語による表現活動Ⅱ-2(コミュニケーション中国語)	4後	1								兼1		
言語による表現活動Ⅲ-1(コミュニケーション韓国語)	4前	1								兼1		
言語による表現活動Ⅲ-2(コミュニケーション韓国語)	4後	1								兼1		
基礎教養系科目	日本国憲法	1前	2								兼1	
	心理学	2前	2								兼1	
	法学	2前	2								兼1	
	社会学	2後	2								兼1	
	経済学	4前	2								兼1	
	保健統計学	2後	2			1						
	生物学	1前	2						1			
	物理学	1前	2						1			
	福祉住環境論	4前	2								兼1	
	看護学基礎演習Ⅰ	1通	2			5	2	4				
	看護学基礎演習Ⅱ	2通	2			1	2	9	1			
専門基礎科学科目	生化学	2前	1						1			
	社会保障論	4後	1								兼1	
	社会福祉学概論	1前	1								兼1	
	地域福祉論	4前	1								兼1	
	子ども家庭福祉論	4前	1								兼1	
	公衆衛生学	2前	1			1						
	人間関係論	2後	1								兼1	
	医学概論	1前	1								兼1	
	リハビリテーション論	2前	1								兼1	
	疫学	2後	2			1						
	臨床薬理学	2前	1								兼1	
	病理学	1前	1								兼1	
	微生物学	2前	1								兼1	
	臨床検査学	2後	1								兼1	
専門教育導入科目	生化学	2前	1						1			
	社会保障論	4後	1								兼1	
	社会福祉学概論	1前	1								兼1	
	地域福祉論	4前	1								兼1	
	子ども家庭福祉論	4前	1								兼1	
	公衆衛生学	2前	1			1						
	人間関係論	2後	1								兼1	
	医学概論	1前	1								兼1	
	リハビリテーション論	2前	1								兼1	
	疫学	2後	2			1						
	臨床薬理学	2前	1								兼1	
病理学	1前	1								兼1		
微生物学	2前	1								兼1		
臨床検査学	2後	1								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手			
基礎 教養 系 科目	専門 教育 導 入 科 目	臨床栄養学	2後	1								兼1	
		チーム医療論	3後	1			1						兼4
		人体の構造と機能Ⅰ(解剖学)	1通	2									兼1
		人体の構造と機能Ⅱ(生理学)	1通	2									兼1
		疾病治療各論Ⅰ(成人)	1後・2前	2									兼11
		疾病治療各論Ⅱ(老人)	2後	1									兼1
		疾病治療各論Ⅲ(小児)	2後	1									兼1
		疾病治療各論Ⅳ(母性)	2後	1									兼1
		疾病治療各論Ⅴ(精神)	2後	1									兼1
		保健医療福祉制度政策論Ⅰ(政策論)	4前	1									兼1
		保健医療福祉制度政策論Ⅱ(法制度)	4前	1			1						
専門 教育 系 科目	看護 の 基 礎	看護学概論	1前	2			1						
		看護過程Ⅰ(概論)	1前	2			1						
		看護過程Ⅱ(演習)	1後	1				1	1				
		看護倫理学	1後	1			1						
		看護技術Ⅰ(基本)	1前	1			1						
		看護技術Ⅱ(日常生活援助技術Ⅰ)	1前	1				1	1				
		看護技術Ⅲ(日常生活援助技術Ⅱ)	1後	1					2				
		看護技術Ⅳ(診療の補助)	2前	1				1					
		看護技術Ⅴ(フィジカルアセスメント)	2前	1					1				
		基礎看護学演習Ⅰ	1後	1			1	1	2		2		
		基礎看護学演習Ⅱ	2後・3前	1			1	1	2		2		
		基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			1	1	2		2		
		基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1	1	2		2		
		成人 看護	成人看護学概論・保健	1後	2			1					
			成人臨床看護論Ⅰ(周手術期看護)	2前	1				1				
	成人臨床看護論Ⅱ(成人慢性期)		2後	1			1						
	成人臨床看護論Ⅲ(看護技術演習)		2前	1				1	1				
	成人臨床看護論Ⅳ(看護過程演習)		2後	1				1		1			
	成人看護学演習		2後・3前	1			1	1	1	1	2		
	成人看護学実習(急性期)		3通	3			1	1			1		
	成人看護学実習(慢性期)		3通	3					1	1	1		
	老年 看護	老年看護学概論・保健	1後	2			1						
		老年臨床看護論Ⅰ(健康障害と看護)	2前	1					2				
		老年臨床看護論Ⅱ(看護技術・看護過程演習)	2後	1				1	1				
		老年看護学演習	2後・3前	1			1	1	3		1		
		老年看護学実習(医療・保健施設、福祉施設)	3通	4			1	1	3		1		
小児 看護	小児看護学概論・保健	1後	2			1							
	小児臨床看護論Ⅰ(健康障害と看護)	2前	1					1					
	小児臨床看護論Ⅱ(看護技術・看護過程演習)	2後	1			1		1					
	小児看護学演習	2後・3前	1			1		1					
	小児看護学実習	3通	2			1		1					
母性 看護	母性看護学概論・保健	1後	2			1							
	母性臨床看護論Ⅰ(周産期の看護)	2前	1					1					
	母性臨床看護論Ⅱ(看護技術・看護過程演習)	2後	1			1		1					
	母性看護学演習(実習指導)	2後・3前	1			1		1					
	母性看護学実習	3通	2			1		1					
精神 看護	精神看護学概論	1後	2			1							
	精神臨床看護論Ⅰ(健康障害と看護)	2前	1					1					
	精神臨床看護論Ⅱ(看護技術・看護過程演習)	2後	1			1		1					
	精神看護学演習	2後・3前	1			1		1					
	精神看護学実習	3通	2			1		1					
在宅 看護	在宅看護論	1後	2			1							
	在宅臨床看護論(看護技術・看護過程演習)	2前	1				1	3					
	在宅看護学演習	2後・3前	1			1	1	3		1			
	在宅看護学実習	3通	2			1	1	3		1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				備考	
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教		助手
専門教育系科目	看護の統合と実践	看護管理論	4前	1			1					
		医の安全	4前		1		1					
		国際看護論	4前		1							
		災害看護論	4前	1			1					
		ケアマネジメント	4前	1			1					
		緩和ケア論	4前		1			1				
		統合看護学演習	4前	1			3	1	3	1		
		統合看護学実習	4前	2			3	1	3	1		
		看護学専門演習(看護研究)	4通	2			9					
	公衆衛生看護	公衆衛生看護学概論	2前	2			1					
		公衆衛生看護技術論(家庭訪問・健康教育)	4前		2			1				
		対象別公衆衛生看護活動論(母子・成人・高齢者)	2後		2			1	1			
		学校保健論	3前		1			1				
		産業保健論	3前		1				1			
		公衆衛生看護管理	3後		2		1					
		家族看護論	1後	2			1					
		公衆衛生看護診断演習	4前		2			1	2			
		公衆衛生看護学実習Ⅰ(個人・家族・集団の生活支援実習)	3通		2		1	1	2			
		公衆衛生看護学実習Ⅱ(公衆衛生看護活動展開実習)	4後		3		1	1	2			

- (注)
- ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成25年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
84	41	0	125	84	41	0	125	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注)
- ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	「該当なし」					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	「該当なし」					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \text{「該当なし」}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	中部学院大学大学院及び中部学院大学短期大学部と共用 ※運動場用地の内、47,488.00㎡は、中部学院大学大学院、中部学院大学短期大学部及び済美高等学校と共用 済美高等学校の収容定員は1,890名			
	校舎敷地	0 ㎡	43,259.33 ㎡	6,238.00 ㎡	49,497.33 ㎡				
	運動場用地	0 ㎡	48,791.06 ㎡	9,654.00 ㎡	58,445.06 ㎡				
	小 計	0 ㎡	92,050.39 ㎡	15,892.00 ㎡	107,942.39 ㎡				
	そ の 他	0 ㎡	50,217.94 ㎡	341.00 ㎡	50,558.94 ㎡				
	合 計	0 ㎡	142,268.33 ㎡	16,233.00 ㎡	158,501.33 ㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	中部学院大学大学院及び中部学院大学短期大学部と共用			
		14,828.120 ㎡ (14,828.120 ㎡)	21,833.584 ㎡ (21,833.584 ㎡)	1,743.440 ㎡ (1,743.440 ㎡)	38,405.144 ㎡ (38,405.144 ㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 語学学習施設は、情報処理学習施設が兼ねる		
		40 室	30 室	30 室	6 室 (補助職員0人)	0 室 (補助職員0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		看護リハビリテーション学部 看護学科		27 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分 80,500冊	
			電子ジャーナル 〔うち外国書〕						
	看護リハビリテーション学部	5,560 [700] (5,560 [700])	69 [9] (69 [9])	26 [26] (26 [26])	160 (160)	3,369 (3,369)	42 (42)		
	計	5,560 [700] (5,560 [700])	69 [9] (69 [9])	26 [26] (26 [26])	160 (160)	3,369 (3,369)	42 (42)		
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数	大学全体				
		1,645.91 ㎡	313 席	164,000 冊					
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		1,348.41 ㎡	野球場 1面		屋内練習場 800㎡				
			テニスコート 6面		弓道道 80㎡				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	350 千円	350 千円	図書購入費	36,000 千円	0 千円	0 千円	
	共同研究費等	7,000 千円	7,000 千円	設備購入費	7,000 千円	0 千円	0 千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,750 千円	1,450 千円	1,450 千円	1,450 千円	- 千円	- 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、資産運用収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成26年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(26)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	中部学院大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収定員	学位又は称号	平均定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
人間福祉学部										
人間福祉学科	4	100	3年次15	430	学士 (社会福祉学)	0.71	平成9年度	岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地		
健康福祉学科	4	80	3年次15	350	学士 (社会福祉学)	0.62	平成13年度	"		平成26年度より募集停止
子ども学部										
子ども学科	4	80	3年次10	340	学士 (子ども学)	0.90	平成19年度	岐阜県関各務原市那加甥田町30番地1		
看護リハビリテーション学部										平成26年4月学部名称変更
理学療法学科	4	60	—	240	学士 (理学療法学)	1.09	平成19年度	岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地		
経営学部										
経営学科	4	80	3年次5	330	学士 (経営学)	0.87	平成20年度	(1・2年次) 岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 (3・4年次) 岐阜県関各務原市那加甥田町30番地1		
通信教育部										
人間福祉学部										
人間福祉学科	4	300	3年次100	1,400	学士 (社会福祉学)	0.56	平成15年度	岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地		
留学生別科	1	30	—	30	—	0.46	平成21年度	岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地		
大学の名称	中部学院大学 短期大学部									備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収定員	学位又は称号	平均定員超過率	開年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
幼児教育学科	2	100	—	200	短期大学士 (幼児教育学)	1.05	昭和42年度	岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地		
社会福祉学科	2	80	—	160	短期大学士 (介護福祉学)	0.81	平成6年度	"		
専攻科福祉専攻	1	30	—	30	—	0.96	平成元年度	"		

- (注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部，学科），大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について，それぞれの学校種ごとに，平成26年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。（ただし，専攻科に係るものについては，記入する必要はありません。）
- ・ 「平均定員超過率」には，標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を，学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には，専攻課程）単位で記入してください。
 - ・ 学生募集を停止している学部等がある場合，入学定員と収容定員は「－」とし，「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。
 - ・ 大学，短期大学においては学科単位（短期大学において専攻課程を置くときは専攻課程単位），大学院においては専攻単位で記入してください。

5 教員組織の状況

<看護リハビリテーション学部 看護学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	山田 静子 (64)	平成26年4月	看護学概論 看護倫理学 基礎看護学演習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅰ 統合看護学演習 統合看護学実習 看護学専門演習(看護研究)						
専	教授	三尾 弘子 (60)	平成26年4月	看護過程Ⅰ(概論) 看護技術Ⅰ(基本) 基礎看護学演習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅱ 統合看護学演習 統合看護学実習 看護学専門演習(看護研究)						
専	教授	足立 はるゑ (70)	平成26年4月	チーム医療論 成人臨床看護論Ⅱ(成人慢性期) 看護管理論 医の安全 統合看護学演習 統合看護学実習 看護学基礎演習Ⅰ 看護学専門演習(看護研究)						
専	教授	大屋 演子 (63)	平成26年4月	保健医療福祉制度政策論Ⅱ(法制度) 成人看護学概論・保健 成人看護学演習 成人看護学実習(急性期) 災害看護論 看護学専門演習(看護研究)						
専	教授	後藤 真澄 (60)	平成26年4月	老年看護学概論・保健 老年看護学演習 老年看護学実習 (医療・保健施設・福祉施設) 在宅看護論 在宅看護学演習 在宅看護学実習 ケアマネジメント 看護学専門演習(看護研究)						
専	教授	今井 七重 (50)	平成26年4月	小児看護学概論・保健 小児臨床看護論Ⅱ (看護技術・看護過程演習) 小児看護学演習 小児看護学実習 看護学基礎演習Ⅰ 看護学専門演習(看護研究)						
専	教授	浅野 恵美 (54)	平成26年4月	母性看護学概論・保健 母性臨床看護論Ⅱ (看護技術・看護過程演習) 母性看護学演習 母性看護学実習 看護学基礎演習Ⅰ 看護学専門演習(看護研究)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	水野 正延 (65)	平成26年4月	精神看護学概論 精神臨床看護論Ⅱ (看護技術・看護過程演習) 精神看護学演習 精神看護学実習 看護学基礎演習Ⅰ 看護学専門演習(看護研究)	専	教授	水野 正延 (65)	平成27年4月	精神臨床看護論Ⅱ (看護技術・看護過程演習) 精神看護学演習 精神看護学実習 看護学専門演習(看護研究)	平成26年4月 水野正延教授の就任が1年遅延(26) 1年次配当科目の内、精神看護学概論の担当者を変更。看護学基礎演習Ⅰは他に担当教員が10名いるため、支障はない。
					専	講師	酒井 千和 (67)	平成26年4月	精神看護学概論	
専	教授	宮田 延子 (66)	平成26年4月	看護学専門演習(看護研究) 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学管理 家族看護論 公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団の生活支援実習) 公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護学活動展開実習)						
専	教授	田中 耕 (63)	平成26年4月	保健統計学 疫学 公衆衛生学 看護学基礎演習Ⅰ 看護学基礎演習Ⅱ						
専	准教授	林 由美子 (54)	平成26年4月	看護過程Ⅱ(演習) 看護技術Ⅱ(日常生活援助技術Ⅰ) 看護技術Ⅳ(診療の補助) 基礎看護学演習Ⅰ 基礎看護学演習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合看護学演習 統合看護学実習						
専	准教授	林 恵美子 (51)	平成26年4月	成人臨床看護論Ⅰ(周手術期看護) 成人臨床看護論Ⅲ(看護技術演習) 成人臨床看護論Ⅳ(看護過程演習) 成人看護学演習 成人看護学実習(急性期) 緩和ケア論 看護学基礎演習Ⅰ						
専	准教授	馬場 美穂 (52)	平成26年4月	老年臨床看護論Ⅱ (看護技術・看護過程演習) 老年看護学演習 老年看護学実習 (医療・保健施設・福祉施設) 在宅臨床看護論 (看護技術・看護過程演習) 在宅看護学演習 在宅看護学実習 看護学基礎演習Ⅰ 看護学基礎演習Ⅱ						
専	准教授	山田 小夜子 (65)	平成27年4月	看護学基礎演習Ⅱ 公衆衛生看護学技術論 (家庭訪問・健康教育) 対象別公衆衛生看護学活動論 (母子・成人・高齢者) 学校保健論 公衆衛生看護学演習 公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団の生活支援実習) 公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護学活動展開実習)						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	講師	木村 恵子 (50)	平成26年4月	看護過程Ⅱ(演習) 看護技術Ⅱ(日常生活援助技術Ⅱ) 看護技術Ⅴ(ケア・シフト) 基礎看護学演習Ⅰ 基礎看護学演習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合看護学演習 統合看護学実習						
専	講師	柴田 美意子 (49)	平成27年4月	成人臨床看護論Ⅲ(看護技術演習) 成人看護学演習 成人看護学実習(慢性期) 看護学基礎演習Ⅱ 統合看護学演習 統合看護学実習	専	講師	織田 千賀子 (51)	平成27年4月	成人臨床看護論Ⅲ(看護技術演習) 成人看護学演習 成人看護学実習(慢性期) 看護学基礎演習Ⅱ 統合看護学演習 統合看護学実習	平成26年4月 柴田美意子講師就任辞退のため、 担当の変更(26)
専	講師	小島 範子 (70)	平成26年4月	老年臨床看護論Ⅰ(健康障害と看護) 老年看護学演習 老年看護学実習 (医療・保健施設・福祉施設) 在宅臨床看護論 (看護技術・看護過程演習) 在宅看護学演習 在宅看護学実習 看護学基礎演習Ⅰ 看護学基礎演習Ⅱ 統合看護学演習 統合看護学実習						
専	講師	留田 由美 (47)	平成26年4月	小児臨床看護論Ⅰ(健康障害と看護) 小児臨床看護論Ⅱ (看護技術・看護過程演習) 小児看護学演習 小児看護学実習 看護学基礎演習Ⅰ 看護学基礎演習Ⅱ						
専	講師	白木 京子 (45)	平成27年4月	母性臨床看護論Ⅰ(産期の看護) 母性臨床看護論Ⅱ (看護技術・看護過程演習) 母性看護学演習 母性看護学実習 看護学基礎演習Ⅱ						
専	講師	酒井 千和 (67)	平成26年4月	精神臨床看護論Ⅰ(健康障害と看護) 精神臨床看護論Ⅱ (看護技術・看護過程演習) 精神看護学演習 精神看護学実習 看護学基礎演習Ⅰ 看護学基礎演習Ⅱ						
専	講師	榎本 敬子 (63)	平成26年4月	老年臨床看護論Ⅰ(健康障害と看護) 老年看護学演習 老年看護学実習 (医療・保健施設・福祉施設) 在宅臨床看護論 (看護技術・看護過程演習) 在宅看護学演習 在宅看護学実習 看護学基礎演習Ⅰ 看護学基礎演習Ⅱ						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	瓜巢 敦子 (38)	平成27年4月	老年臨床看護論Ⅱ (看護技術・看護過程演習) 老年看護学演習 老年看護学実習 (医療・保健施設・福祉施設) 在宅臨床看護論 (看護技術・看護過程演習) 在宅看護学演習 在宅看護学実習 看護学基礎演習Ⅱ						
専	講師	高田 真澄 (34)	平成27年4月	産業保健論 公衆衛生看護診断演習 公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家庭・集団の生活支援実習) 公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護活動展開実習) 看護学基礎演習Ⅱ						
専	講師	堀 希好 (43)	平成27年4月	対象別公衆衛生看護活動論 (母子・成人・高齢者) 公衆衛生看護診断演習 公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家庭・集団の生活支援実習) 公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護活動展開実習) 看護学基礎演習Ⅱ						
専	講師	真鍋 智江 (48)	平成26年4月	看護技術Ⅱ(日常生活援助技術Ⅰ) 看護技術Ⅲ(日常生活援助技術Ⅱ) 基礎看護学演習Ⅰ 基礎看護学演習Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ						
専	助教	眞田 正代 (56)	平成27年4月	成人臨床看護論Ⅳ(看護過程演習) 成人看護学演習 成人看護学実習(慢性期) 看護学基礎演習Ⅱ 統合看護学演習 統合看護学実習						
専	助教	小高 健仁 (48)	平成26年4月	情報活用論Ⅰ 情報活用論Ⅱ 情報活用論Ⅲ 生物学 物理学 生化学						
兼任	教授	笠井 恵二 (73)	平成26年4月	キリスト教概論 哲学の基礎 宗教と人間						
兼任	教授	文 貞實 (57)	平成29年4月	現代社会と人間	兼任	教授	田草川 僚一 (65)	平成29年4月	現代社会と人間	平成26年4月 文貞實兼任教員就任辞退のため、 担当の変更(26)
兼任	教授	寺嶋 正己 (66)	平成29年4月	現代社会と情報						
兼任	教授	飯尾 良英 (67)	平成29年4月	美濃と飛騨のふくし						
兼任	教授	水野 かがみ (49)	平成26年4月	スポーツ科学論 身体による表現活動Ⅱ (レクリエーション実技)						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼担	教授	石川 淑人 (64)	平成26年4月	身体による表現活動Ⅰ (スポーツ実技)						
兼担	教授	田草川 僚一 (65)	平成27年4月	社会学						
兼担	教授	山崎 節子 (66)	平成27年4月	リハビリテーション論						
兼担	教授	琴尾 泰典 (67)	平成26年4月	病理学 疾病治療各論Ⅰ(成人)						
兼担	教授	葛谷 昌之 (74)	平成29年4月	チーム医療論						
兼担	教授	藤園 秀信 (67)	平成29年4月	チーム医療論						
兼担	教授	林 典雄 (52)	平成29年4月	チーム医療論						
兼担	教授	正村 静子 (72)	平成26年4月	人体の構造と機能Ⅰ(解剖学)						
兼担	教授	三上 章允 (68)	平成26年4月	人体の構造と機能Ⅱ(生理学)						
兼担	教授	金田 修幸 (73)	平成27年4月	疾病治療各論Ⅲ(小児)						
兼担	准教授	宮嶋 淳 (50)	平成27年4月	ボランティア活動論 子ども家庭福祉論						
兼担	准教授	柴崎 直人 (48)	平成26年4月	キャリア形成論Ⅰ						
兼担	准教授	大橋 明 (36)	平成27年4月	心理学 人間関係論						
兼担	准教授	小島 和貴 (46)	平成29年4月	経済学 保健医療福祉制度政策論Ⅰ(政策論)						
兼担	准教授	片桐 史恵 (44)	平成26年4月	言語による表現活動Ⅰ-1 (コミュニケーション英語) 言語による表現活動Ⅰ-2 (コミュニケーション英語) 言語による表現活動Ⅰ-3 (コミュニケーション英語) 言語による表現活動Ⅰ-4 (コミュニケーション英語)						
兼担	准教授	早川 潤一 (56)	平成29年4月	福祉住環境論						
兼担	准教授	福地 潮人 (45)	平成29年4月	社会保障論						
兼担	准教授	大藪 元康 (42)	平成26年4月	社会福祉学概論						
兼担	准教授	宮川 淑恵 (46)	平成29年4月	地域福祉論	兼担	准教授	新井 康友 (41)	平成29年4月	地域福祉論	平成26年4月 宮川淑恵兼任教員就任辞退のため、 担当者の変更(26)
兼担	准教授	森田 直子 (44)	平成29年4月	チーム医療論						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	浅田 訓永 (34)	平成26年4月	日本国憲法 法学						
兼任	講師	三木 秀生 (73)	平成29年4月	文学と人間						
兼任	講師	片桐 多恵子 (75)	平成29年4月	人間と言語発達						
兼任	講師	鬼頭 靖尚 (63)	平成27年4月	キャリア形成論Ⅱ	兼任	教授	田草川 僚一 (65)	平成29年4月	キャリア形成論Ⅱ	平成26年4月 鬼頭靖尚兼任教員死去のため、担当 者の変更(26)
兼任	講師	望月 霞 (51)	平成29年4月	言語による表現活動Ⅱ-1 (コミュニケーション中国語) 言語による表現活動Ⅱ-2 (コミュニケーション中国語)						
兼任	講師	小木曾 佳子 (54)	平成29年4月	言語による表現活動Ⅲ-1 (コミュニケーション韓国語) 言語による表現活動Ⅲ-1 (コミュニケーション韓国語)						
兼任	講師	渡邊 正 (72)	平成26年4月	医学概論 疾病治療各論Ⅰ(成人)	兼任	教授	琴尾 泰典 (67)	平成26年4月	医学概論 疾病治療各論Ⅰ(成人)	平成26年4月 渡邊正兼任教員就任辞退のため、 担当者の変更(26) 疾病治療各論Ⅰ(成人)は オムバス 開講であり、渡邊担当分を琴尾兼 担教員が行う。
兼任	講師	森 裕志 (67)	平成27年4月	臨床薬理学 微生物学						
兼任	講師	足立 宜泰 (62)	平成27年4月	臨床検査学						
兼任	講師	菊池 啓子 (49)	平成27年4月	臨床栄養学						
兼任	講師	山田 孝子 (56)	平成26年4月	疾病治療各論Ⅰ(成人)						
兼任	講師	内田 一生 (48)	平成26年4月	疾病治療各論Ⅰ(成人)						
兼任	講師	石川 英樹 (45)	平成26年4月	疾病治療各論Ⅰ(成人)						
兼任	講師	筑紫 さおり (47)	平成26年4月	疾病治療各論Ⅰ(成人)						
兼任	講師	小島 克之 (42)	平成26年4月	疾病治療各論Ⅰ(成人)						
兼任	講師	安田 聡 (51)	平成26年4月	疾病治療各論Ⅰ(成人)						
兼任	講師	前田 学 (64)	平成26年4月	疾病治療各論Ⅰ(成人)						
兼任	講師	直原 修一 (61)	平成26年4月	疾病治療各論Ⅰ(成人)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	柳田 正巳(60)	平成26年4月	疾病治療各論Ⅰ(成人)						
兼任	講師	長縄 伸幸(67)	平成27年4月	疾病治療各論Ⅱ(老人)						
兼任	講師	石原 恒明(65)	平成27年4月	疾病治療各論Ⅳ(母性)						
兼任	講師	天野 宏一(70)	平成27年4月	疾病治療各論Ⅴ(精神)						
兼任	講師	小林 明子(63)	平成29年4月	国際看護論						

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成26年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
10	4	11	2	27	9	3	6	1	19	65	6
(9)	(3)	(6)	(1)	(19)	[△1]	[△1]	[△5]	[△1]	[△8]	歳	名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成26年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)
- ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成26年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 - ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	講師	柴田 美意子	就任承諾時は、家庭の状況を考え就任可能と判断されたが、その後家庭の事情が変わり、就任後に家庭と仕事の両立ができないと判断され、就任辞退となった。
2			
3			

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任承諾後に家庭の事情が変わってきたことで、就任辞退の申し出があった。やむ終えない事情であると考え、後任の対処を開始した。後任には専任講師として織田千賀子講師が就任予定である。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (26年4月)	「該当なし」		
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年△△月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年□□月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年●●月)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<看護リハビリテーション学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
「該当なし」	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、教育・教員の教育水準、資質の維持向上、授業内容方法の改善を図るため、組織的な取り組みを行っている。平成9年の大学開設後からFDを進めている。

平成25年度及び平成26年度の委員は以下のとおり。

<平成25年度>

林陽子(教授・委員長) 眞野美佐子(教授・副委員長) 寺嶋正己(教授) 後藤真澄(教授) 柴田純一(教授)
三上章允(教授) 山崎節子(教授) 今井春昭(教授) 畠山久志(教授) 天野薫(教授) 浅野俊和(教授)
石川淑人(教授) 藤園秀信(教授)

<平成26年度>

今井春昭(教授・委員長) 畠山久志(教授・副委員長) 寺嶋正己(教授) 柴田純一(教授) 天野薫(教授)
三上章允(教授) 山崎節子(教授) 山田静子(教授) 林陽子(教授) 眞野美佐子(教授) 浅野俊和(教授)
石川淑人(教授) 藤園秀信(教授)

また、さらなるFDの充実と機能化を図るため、平成24年に規程の整備を行い、中部学院大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程を制定した。

中部学院大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

(目 的)

第1条 この規程は、中部学院大学学則第2条の3の規定に基づき、授業及び研究指導の内容並びに方法の改善を図り、組織的な研修及び研究の実施に努めるために必要な事項を定めることを目的とする。

(委員会の設置)

第2条 前条の目的を達成するため、中部学院大学(以下「大学」という。)に、ファカルティ・ディベロップメント委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 必要があるときは、中部学院大学短期大学部(以下「短期大学」という。)ファカルティ・ディベロップメント委員会と合同で委員会を開き、関係事項を審議することができる。

(役割)

第3条 委員会は、本学のファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)活動に関し、次の各号に掲げる事項について審議するとともに、教育内容等の改善の推進に努めるものとする。

- (1) FD活動の企画立案
- (2) FD活動の実施計画の立案
- (3) FD活動の評価
- (4) FD活動に関する情報の収集と提供
- (5) その他、学長の諮問する事項

第4条 委員会の委員長、副委員長及び委員は、学長が指名する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任することができる。

4 委員会において、必要があるときは、委員長は、委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(会議)

第5条 委員長は、委員会を招集しその議長となる。

2 委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、副委員長がその職務を代理する。

(専門部会)

第6条 委員会は、必要に応じ専門部会を置き、関係事項を審議させることができる。

2 専門部会の委員は、委員長が指名する。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、大学事務局教務部と教育研究支援部が合同で処理する。

2 前項の他、大学及び短期大学の学長が事前に協議の上、必要がある場合には、委員会に関する事務を担当する者を別に置くことができる。

附 則 [2012年12月18日 理事会議決]

この規程は、2012年12月18日から施行する。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

FD委員会は、委員が教授会出席者に含まれるため、教授会終了後に開催している。教授会は毎月第2木曜日に開催されており、教授会終了後に同会議室において、FD委員会で審議すべき事項等について審議を重ねた。

c 委員会の審議事項等

平成25年度のFD委員会で取り扱った審議事項は以下のとおり。

- ・FD委員会の役割及び所掌事項の確認。
- ・授業評価アンケートの実施方法について。
- ・授業評価アンケート結果に対する改善処置について。
- ・教育内容の改善に関する事項について。
- ・FD研修会の検討テーマについて。

② 実施状況

a 実施内容

- ・教職員研修会
- ・新任教員・事務職員研修会
- ・学生による授業評価

b 実施方法

- ・教職員研修会

平成25年度、「初年次教育の取り組みと効果について～退学問題から考える～」のテーマで、ワークショップ形式の研修会を行った。初年次教育については、平成22年度に「大学教育と初年次教育」、翌平成23年度に「初年次教育について」のテーマで研修会を実施したが、平成25年度は振り返りと反省及び今後の取り組みについて整理するために、初年次教育のテーマを再度取り上げた。教職員全員参加としたワークショップ形式の研修会では、活発な議論が交わされた。

- ・新任教員・事務職員研修会

2014年4月3日新規採用教員、事務職員を対象に研修会を行った。主な内容は①建学の精神について ②研究支援について ③教員組織・事務組織について ④情報公開について ⑤授業評価等について研修を行った。対象者全員が出席した。

- ・学生による授業評価

学生による授業評価は、大学が開学した平成9年度より実施し、その後、平成11年度に教育内容改善委員会を設置し、同委員会において、授業評価項目を授業内容と授業形態に合わせた5段階評価の評価項目に、また担当教員が独自に評価項目を設定できる部分や、学生の声反映できる学生記述部分も取り入れるなど見直しを行い、その後も改善を加えながら現在に至っている。学生が行った授業評価結果は、担当教員の所感とともに学生に開示し、授業への反映、改善に使用している。看護リハビリテーション学部看護学科でも開学初年度より学生による授業評価を実施する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

FDの具体的な活動としては、毎年、FD研修会を開催している。FD研修会はFD委員会が企画、立案しており、専任教員は全員参加が義務づけられている。

平成19年度から平成25年度までのFD研修会の検討テーマは次のとおり。

< FD研修会 >

実施年度	検討テーマ	講師・その他
平成19年度	教育制度改革と私立大学教職員の役割	高倉翔(明海大学学長)
平成20年度	中国の教育事情/中国における日本留学の状況	篠原清昭(岐阜大学教育学部教授)
		小山豊弘(京都女子大学非常勤講師)
平成21年度	障害学生への支援-聴覚障害を中心に-	都築繁幸(愛知教育大学教育学部教授)
平成22年度	大学改革と初年次教育	濱名篤(関西国際大学学長)
平成23年度	初年次教育について	ワークショップ形式
平成24年度	実習教育について	発表及び意見交換
平成25年度	初年次教育の取り組みと効果について～退学問題から考える～	ワークショップ形式

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

各教員の授業改善については、授業評価アンケートの結果に基づき、各教員が授業改善計画書を学長に提出し、授業内容の改善点、改善方法を報告している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

学生に対する授業評価アンケートは、前期及び後期の最終授業において全ての科目で実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの結果は、各教員へ配布するとともに、学生に対して公開するためにアンケート結果一覧を冊子にし、両キャンパス(関キャンパス、各務原キャンパス)の図書館に設置している。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1. 教員組織及び開講科目

看護リハビリテーション学部看護学科は本年度開学し、1年目を迎えた。教員組織については、1年次就任予定の専任教員20名のうち、19名が就任した。水野正延教授は就任時期が1年遅延となり、平成27年4月に就任することになった。1年次に開講される「精神看護学概論」は、別の専任教員(酒井千和講師)が担当することになった。また「看護学基礎演習Ⅰ」は他に担当教員が10名いることから問題ないとする。2年次以降に開講される科目については、予定通り水野教授が担当する。また、平成27年4月就任予定の柴田美意子講師が家庭の事情により就任辞退となったが、後任として織田千賀子講師が就任予定であり、問題ないとする。

兼担、兼任教員で、文貞實兼担教授に担当を予定していた選択科目「現代社会と人間」、宮川淑恵兼担准教授に担当を予定していた選択科目「地域福祉論」、鬼頭靖尚兼任講師に担当を予定していた選択科目「キャリア形成論Ⅱ」、渡邊正兼任講師に担当を予定していた必修科目「医学概論」「疾病治療各論Ⅰ(成人)」で担当教員を変更したが、いずれも他学部の専任教員が兼担として担当するため、学修上の効果は一層向上するものとする。

1年次開講科目については上記の担当教員変更があったが、これ以外の科目については申請時の計画どおり開講することができた。

2. 学生確保

学生確保は文系、理系を問わず、受験しやすい科目構成での選抜試験と学力試験以外に、推薦入試を導入し、多様な受験生から優秀な学生を獲得した。

受験者は333名(入学定員80名の約3.2倍)あり、入学者は91名(入学定員の1.13倍)であった。

3. 施設・設備

看護リハビリテーション学部看護学科設置に伴い、実習棟を申請時建築予定とし、予定どおり3月中旬に完成し、機械器具も3月末日までに全て納入した。

4. 実習施設の確保

申請時、実習先を112施設確保しており、今後は学生の出身地も考慮して更に実習先を確保していく予定である。

5. 履修指導

看護リハビリテーション学部看護学科は看護師の人材を養成するため、看護師養成施設の指定施設として指定を受けている。指定基準に必修科目が多いことから、教育課程も必修科目が多いため、きめ細かな履修指導を行う必要があり、申請時の計画で看護学基礎演習Ⅰ(1年次)、看護学基礎演習Ⅱ(2年次)を複数の教員が担当することとし、履修指導、学生相談も行うクラス担任の役割を持たせることにした。現在、その役割は予定どおり機能している。

6. 総括評価・所見

看護リハビリテーション学部看護学科は開学して1ヶ月経過した時点では、入学者も入学定員を上回ることができ、1年次就任予定の専任教員も1名を除き予定どおり就任し、1年次開講科目も全て開講することができた。また、学科開設に伴う施設・設備も申請時の計画どおり整備できた。1年次2月から予定している基礎看護学実習Ⅰの実習先依頼も順調に進めている。

現段階では、申請時の計画どおり概ね履行しているとする。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・平成27年5月1日 公表予定

b 公表方法

- ・ 大学ホームページ上に公開予定。(平成27年5月)

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成30年度に評価機関(財団法人大学基準協会)の評価を受ける予定で、今後、学内で検討を進める。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

(平成26年 5月31日)